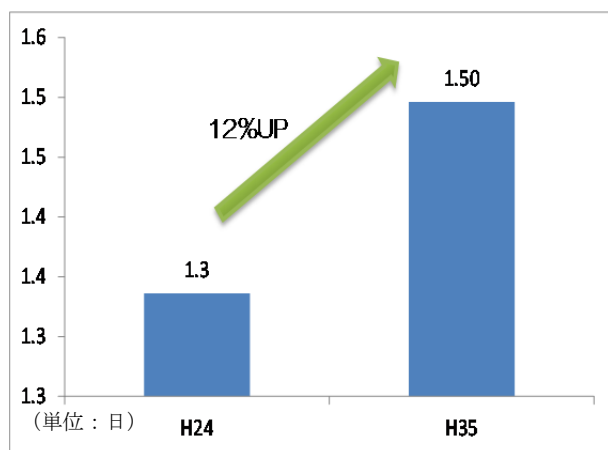


## 目標設定について

## ●目標 1 滞在日数の拡大

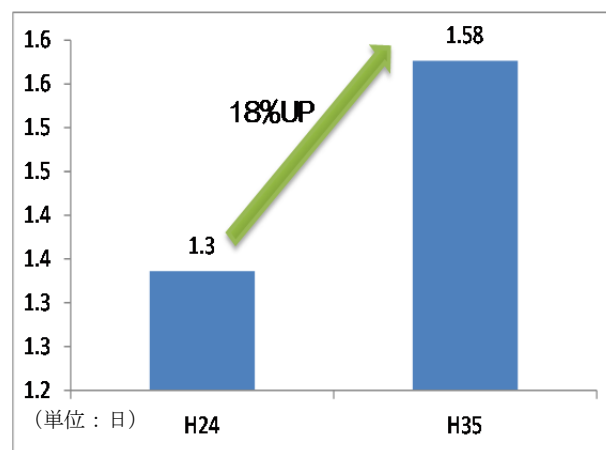
## 【北海道目標ベース】

・H24年の平均滞在日数の1.3日を1.5日と12%拡大

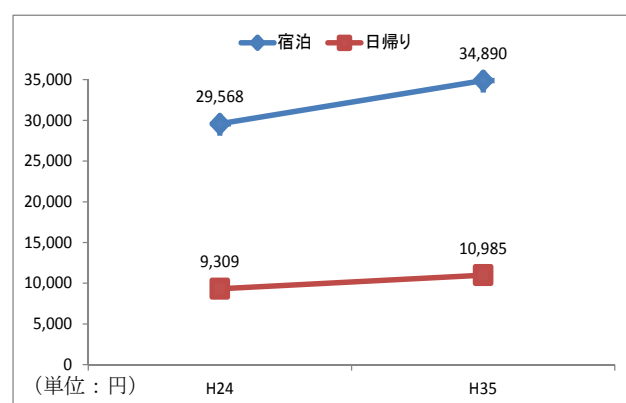
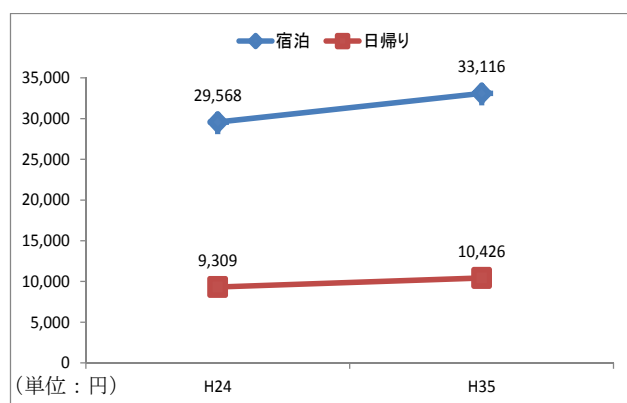


## 【観光庁目標ベース】

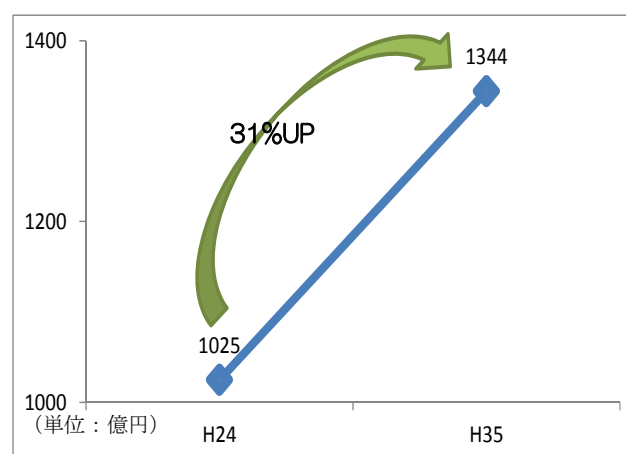
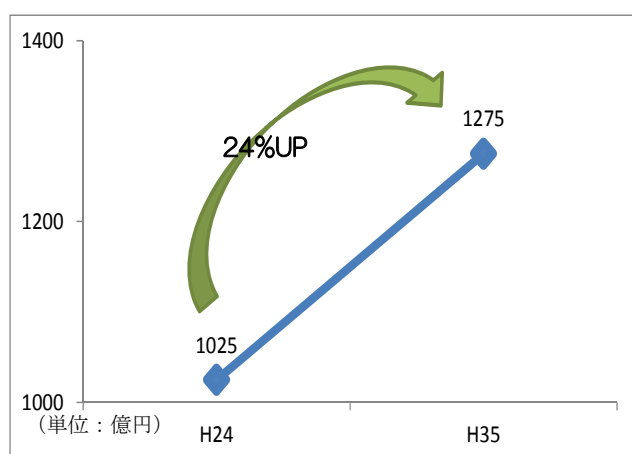
・H24年の平均滞在日数の1.3日を1.58日と18%拡大



・滞在日数を拡大することにより、消費額単価もUP



・消費額単価が上がることにより、観光による直接効果の拡大（来函目標観光客数500万人※）

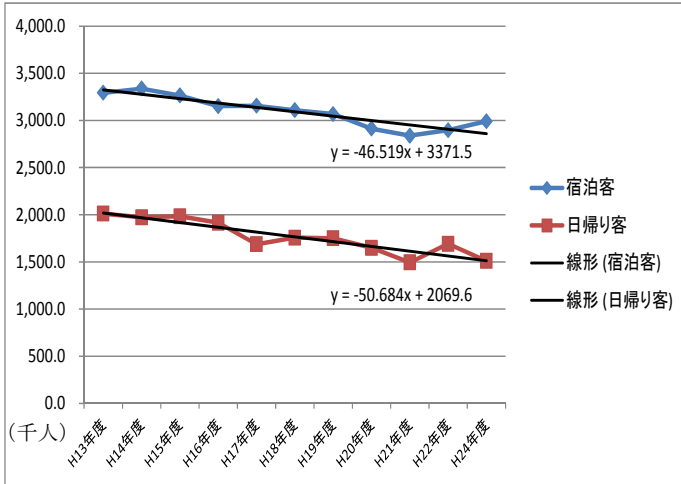


・消費額の推計方法 = 来函入り込み数×消費額単価

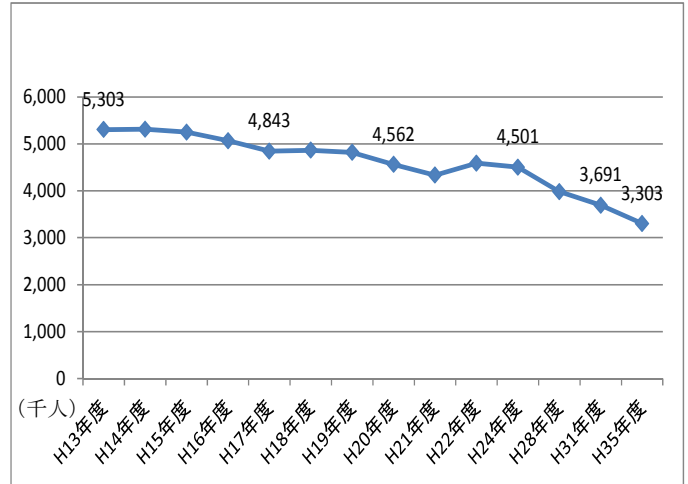
【参考：観光入込みの目標について】

○目標観光入込み数：500万人

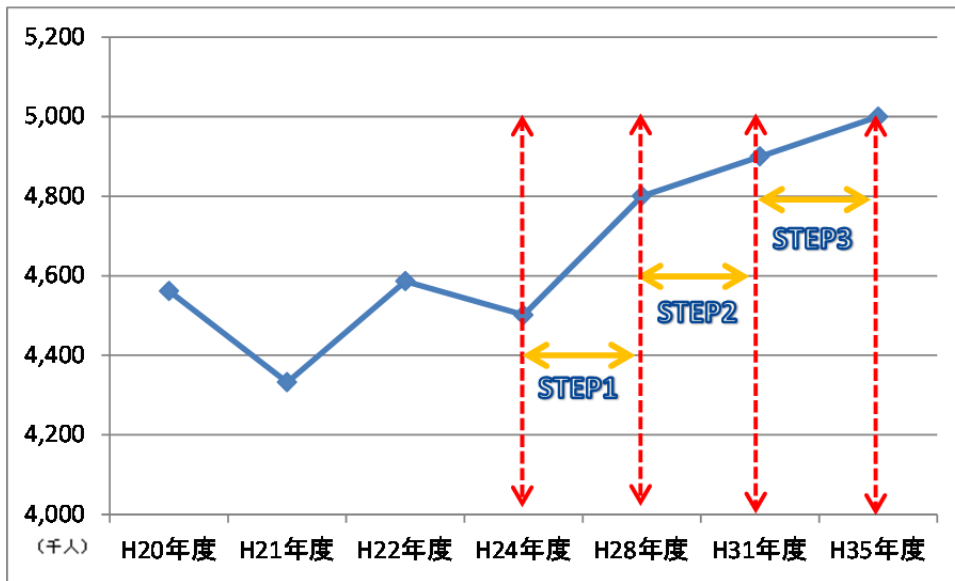
①観光入込みの推移



②観光入込みの将来予測



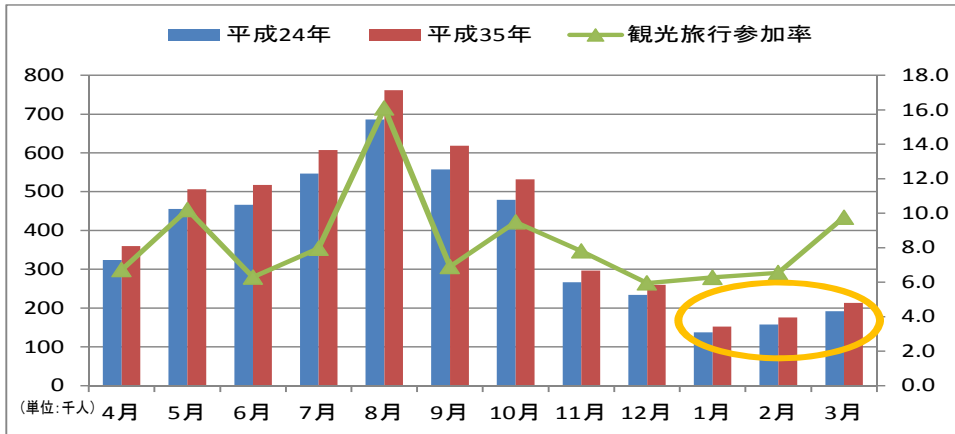
③観光入込みの目標



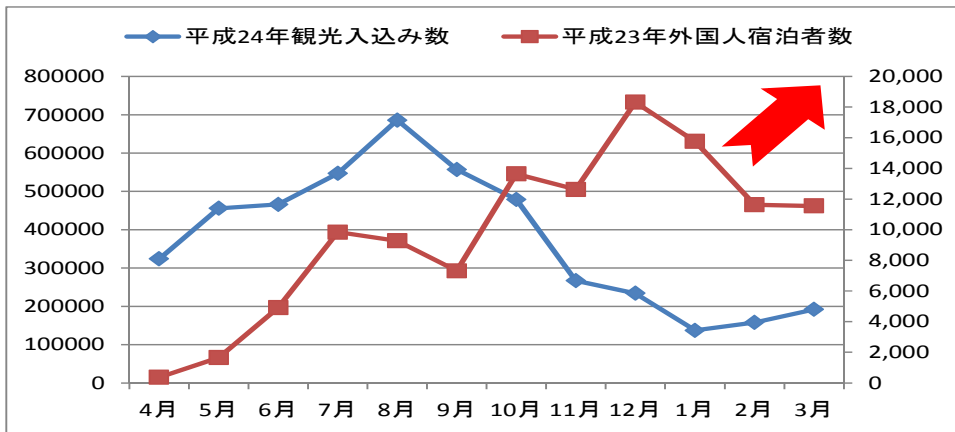
- ・STEP1：新幹線開通効果として、平成24年度に対し 30万人UP し、480万人に
- ・STEP2：新幹線開通効果を維持し、平成28年度に対し 10万人UP し、490万人に
- ・STEP3：新幹線開通効果を維持し、平成31年度に対し 10万人UP し、500万人に

●目標2 交流人口の拡大

①冬季の観光込み客数の底上げ



②冬季の外国人の観光客を中心とした底上げ

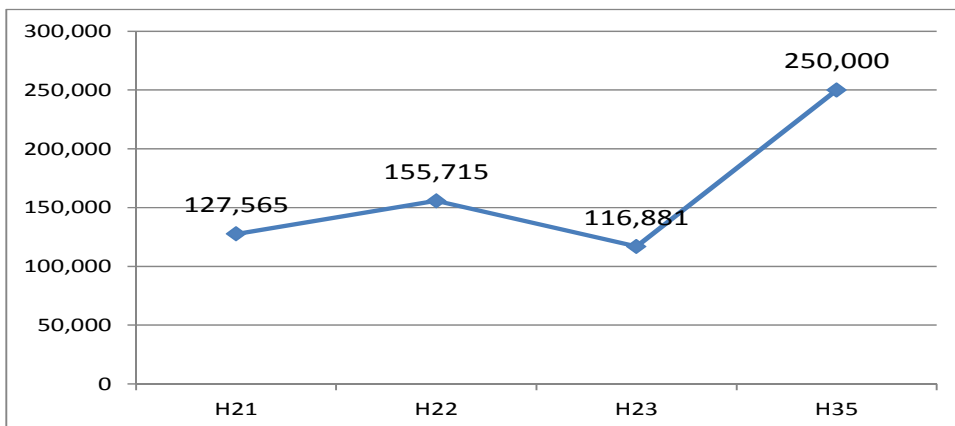


・来函日本人は夏を中心にピークになっているが、来函外国人は冬季がピークになっているため、冬季の来函外国人をさらに底上げすることが重要

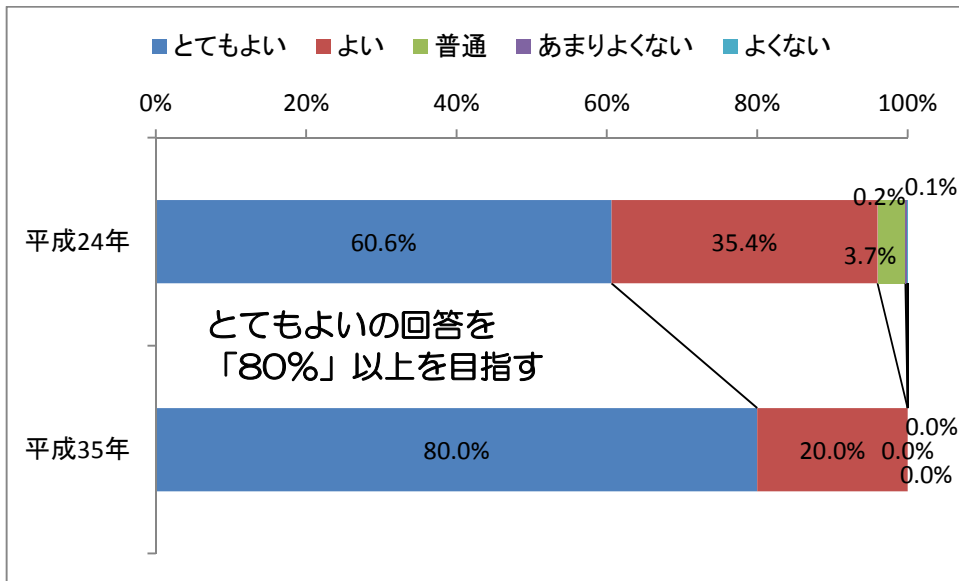
③国際交流人口の拡大

○目標観光入込み数 : 25万人

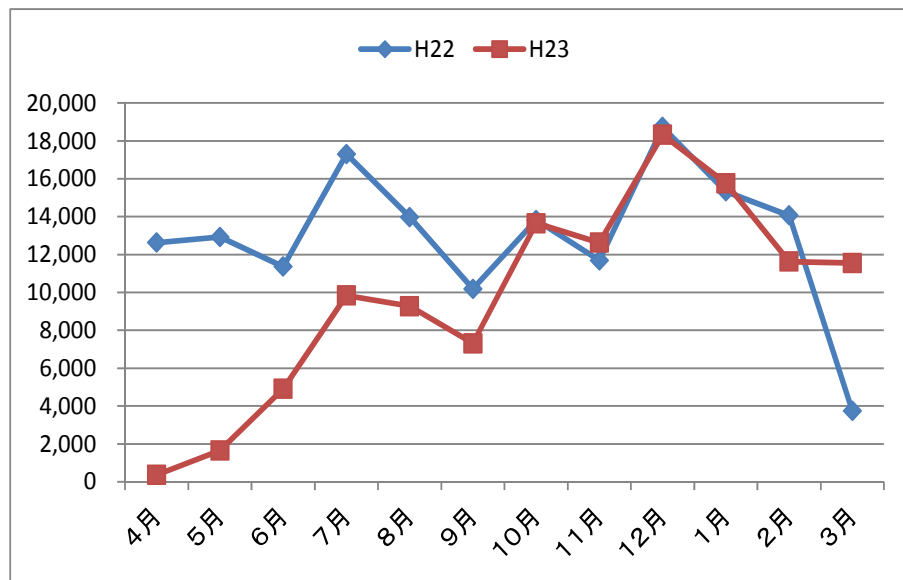
・来道宿泊外国人観光客数における来函宿泊外国人観光客数の占め率が増加傾向にあり、平成21年からのトレンドから平成35年の観光客数を予測する、21年の8.1%に対し、平成35年には16%に倍増する見込み。



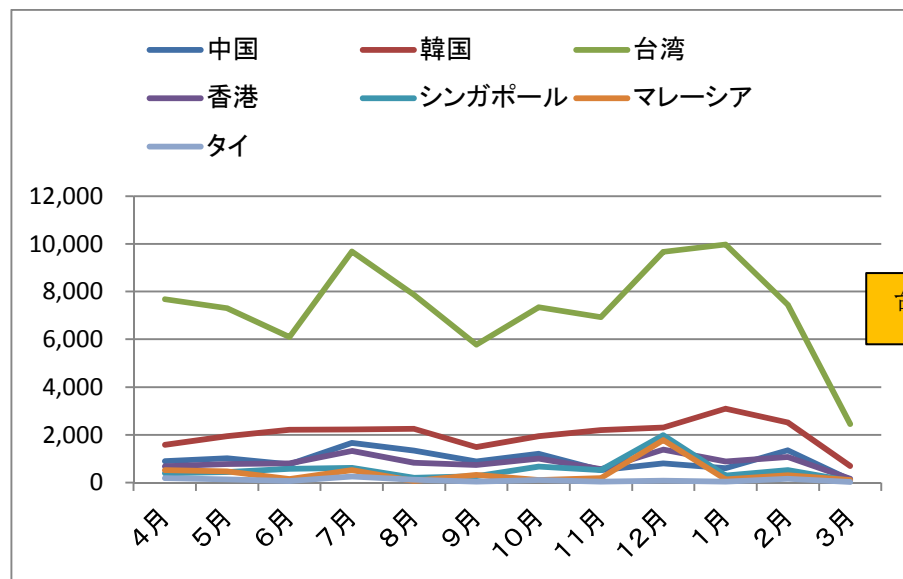
●目標3 満足度の向上



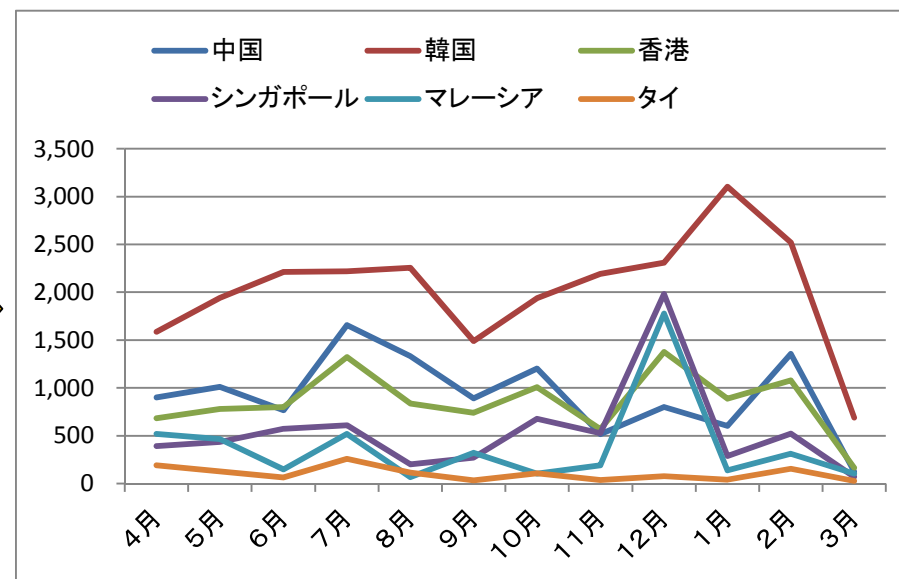
(1) 全体



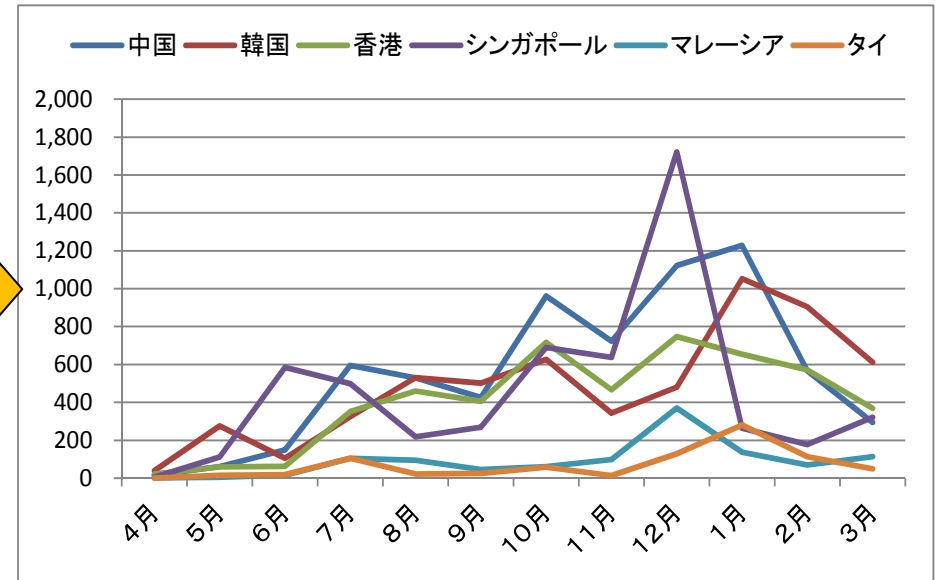
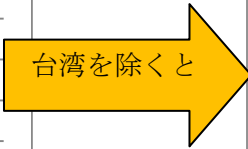
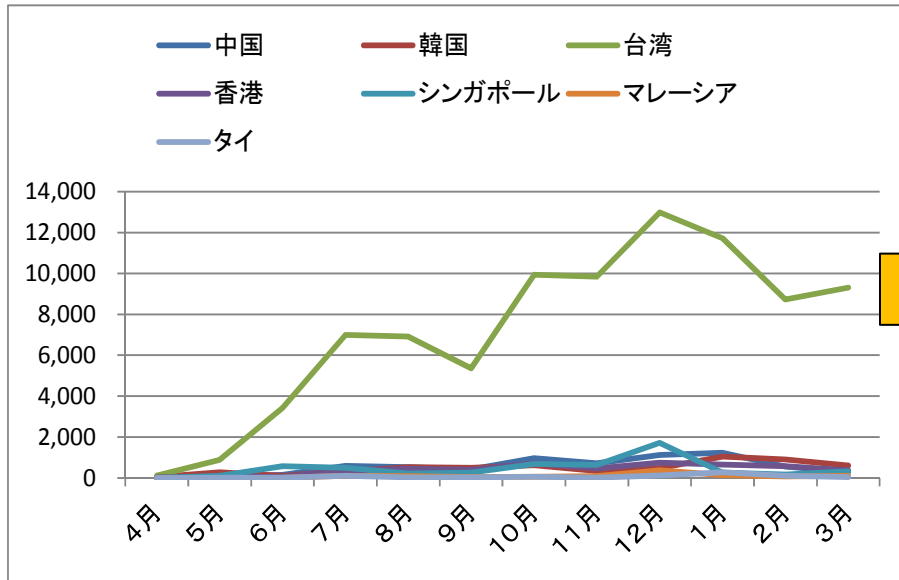
(2) 平成 22 年



台湾を除くと

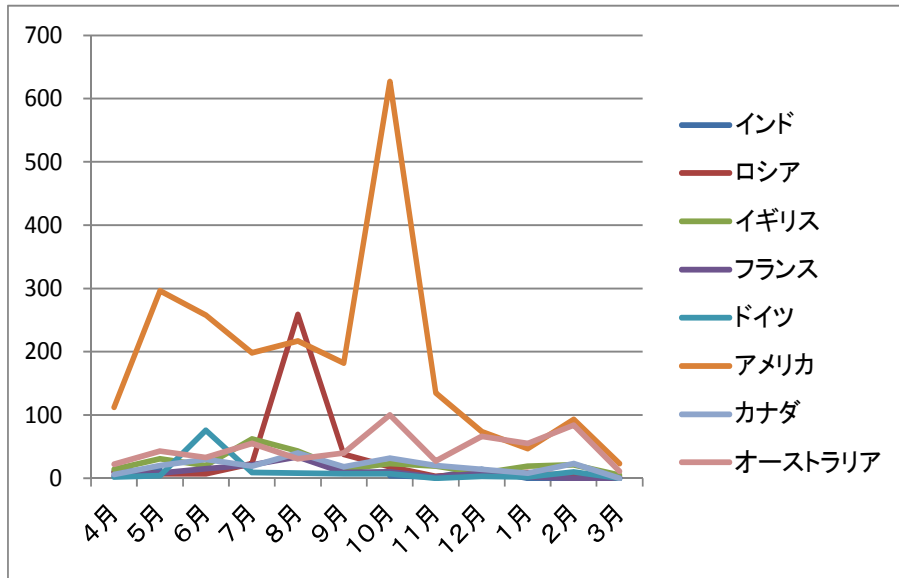


(3) 平成 23 年



(4) その他の国

(H22 年)



(H23 年)

